

R 元年度第 1 回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和元年 8 月 28 日（水） 9：30～11：30

場所：本山町プラチナセンター ふれあいホール

出席：委員 17 名中、13 名が出席（代理出席 1 名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）嶺北地域アクションプラン 実行 3 年半の取り組みの総括について

議事（1）（2）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）嶺北地域アクションプラン 実行 3 年半の取り組みの総括について

（No.8 嶺北地域における林業クラスター化の取組）

（窪内委員）

素材生産量の目標、皆伐と間伐の割合、皆伐後の再生林の状況、昨年の豪雨災害の影響はどうか。

（豊永地域産業振興監）

素材生産量の目標については、130,000 m³という目標を掲げている。

（柿部嶺北林業振興事務所長）

詳細な資料は手元にないが、嶺北は間伐の割合が多い。ただ、130,000 m³という目標を達成するためには、皆伐も一定増やしていかなざるを得ない。本来皆伐したら 100%再生林を行うことが望ましいが、残念ながら、素材の次期収穫に至るまでのコストが問題。そういった部分に対して嶺北地域では補助事業を活用し、50%程度は再生林を行っている。

昨年の豪雨災害で被災した搬出道については、森の工場内の搬出道の被災についての復旧支援がある。

（窪内委員）

130,000 m³が目標で現在 105,000 m³であれば、残りは 25,000 m³。さらに増産をすると C 材もかなり出てくるが、地域内での利用方法はどのように考えているか。

（豊永地域産業振興監）

バイオマス発電の燃料としての利用が考えられる。本山町で建設に向けて調整を進めている次世代ハウスや大川村の白滝の里で導入に向けた検討が行われている。

（No.11 嶺北地域の特産品販路拡大への支援）

（和田（守）委員）

現在、道の駅土佐さめうらを中心に、町の事業を活用して農産物の地産外商に取り組んでい

るが、これから先、品数を増やし、もっと県外の飲食店に売り込んでいくには農産物の集荷の拠点が必要となるものの、今後道の駅で集荷の拠点づくりを進めていくことは難しいと考えている。

現在 JA 高知県では集出荷場の移設を検討しているが、その中で、この特産品販売の事業をより良い仕組みにできないか。

(和田(常)委員)

現在県全体の集出荷場の見直しの議論を行っており、嶺北地域では集出荷場の移転を検討している。和田町長のご意見を含めて検討をしていく。

また、先ほどの総括説明について一点補足をさせていただくと、「No.2 JA 出資型法人(れいほく未来)を核とする地域活性化の取組」のれいほく未来の経営状況についてはご説明いただいたとおりだが、これは畜産事業は収入になるまでに3年くらいかかるため、キャッシュフローがもともと難しいことが原因。昨年度増資を行ったのでキャッシュフローは改善し、今年6月の仮決算でも大きく改善できている。今後は研修生の受入体制を整えていきたい。

(伊藤中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所長)

今年4月に「とさのさと」がオープンした。「とさのさと」が持っている県内集荷ルートを活用し、農産物を「とさのさと」で販売することもできる。また、直販所関係の出荷については、拠点ビジネスとして農協と連携していくことも可能。

れいほく未来については、園芸部門も厳しい状況にあるが、複合経営拠点として位置づけられており、地域を守る、農地を支えることと稼ぐことがある。この稼ぐ部分が畜産や園芸の部分。この稼ぐという部分が苦戦している。

園芸については、農福連携を進めており、小さい部分ではあるが作業の効率化などが進んでいる。

(重光委員)

集出荷は大事なことだが、集出荷をしても、いいものは「とさのさと」へでは困る。嶺北地域に行ってもあまりいい農産物がないということにならないか、中山間地の空洞化を心配している。

(伊藤中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所長)

地域の直販所と「とさのさと」は両輪。例えば道の駅に置いていても売れないが、とさのさとに持って行けば売れるというものもある。

(豊永地域産業振興監)

「とさのさと」での集荷については、れんけいこうちの取り組みの中で、「とさのさと」側からも地域の直販所も成り立つような形でやっていくという話が出ている。

(以上)